

在宅医療の新しい時代において、

メディカルラボが目指す在宅医療コンサルティングとは？



1. 在宅医療が抱える課題の迅速な解決策提案

在宅医療は、患者さんが自宅で必要な医療ケアを受けられるという大きなメリットがある一方で、いくつかの課題も存在します。

【課題例】

- ・医療従事者の負担増加や 24 時間対応の必要性。
- ・地域医療機関や訪問看護との連携不足により、医療提供体制が十分に機能しない場合。

【効果的な解決策提案例】

- ・診療所、クリニックが新たに在宅医療を導入する際の在宅療養支援診療所の開設や訪問診療体制の充実の総合支援。
- ・在宅療養支援診療所併設訪問看護ステーション開設と他の訪問看護ステーションとの連携強化の支援。
- ・地域の医療機関が共同で利用できる医療ネットワークの構築を支援。

2. 高齢化社会に伴い、在宅医療の需要の対応

日本では高齢化が急速に進み、高齢者が住み慣れた地域で生活を続けたいという希望がますます高まっています。特に 75 歳以上の多くの方が、病院ではなく自宅で療養を希望しており、この傾向は今後も続くと予想されます。しかし、医療機関への集中や、在宅医療を支える人材や設備が不足している地域も多いのが現状です。こうした状況の中、在宅医療コンサルティングの需要が増えています。地域住民のニーズに合わせた在宅医療体制の整備を支援することで、高齢者が安心して自宅で過ごせる環境を整えることで、地域医療全体の質の向上が期待されております。

3. 患者さんと医師の間のギャップを埋めるためのコンサルティングの役割

在宅医療では、患者さんと医師の間にある認識のズレを埋めることが重要です。

患者さんや家族が在宅医療の選択肢を十分に理解していなかったり、医師が患者さんの価値観や希望を汲み取る機会が不足している場合があります。このようなギャップを解消することは、患者さん中心の医療サービスを実現する上で欠かせません。

在宅医療コンサルティングでは、患者さんや家族への啓発活動や、医療従事者への研修・教育支援を通じて、このギャップを埋めることを目指しております。また、医師が電子カルテや遠隔医療ツールを活用する際の支援を行い、時間や物理的距離を超えて効果的なケアを提供できるよう支援します。

こうした取り組みを通じて、医師と患者さんの間に信頼と理解を築き、在宅医療の質を向上させていただいています。

4. 地域連携を強化し、在宅医療の普及に寄与する取り組み

在宅医療を広めるためには、地域の医療機関や介護事業者、行政との連携が不可欠です。地域全体で在宅医療を支える仕組みを作ることで、患者さんが安心して療養できる環境を整えることができます。この流れの一環として、地域包括ケアシステムの構築も重要です。

在宅医療コンサルティングでは、地域ごとの医療提供体制を調査・分析し、最適な在宅医療モデルを提案します。また、診療所やクリニックをつなぐネットワーク作りを支援し、多職種間の連携を促進します。